

「間質性肺炎の診断・予後予測における機械学習の活用の検討」に関する公示

間質性肺炎は、肺の間質を炎症や線維化病変の場とする疾患の総称で、国の難病に指定されています。中でも、特発性肺線維症(IPF)は、肺の線維化が進行性に悪化し、生存期間中央値が2~3年と予後不良の疾患です。間質性肺炎の診断には専門的施設・専門医が集まって診断する事が重要とされますが、実際に本邦で実現可能な施設は限られています。また、近年広義の人工知能による医療への応用が期待されており、従来の検査の組み合わせによって間質性肺炎の診断を自動的に予測するモデルを構築できる可能性があります。

そこで、2007年4月~2017年5月に、公立陶生病院で間質性肺炎の診断を受けられた患者さんを、従来の検査の組み合わせで予測する方法を検討するため、該当する患者さんの診療情報（診療の為に記録された電子カルテ情報、問診情報、検査データ、臨床研究に付随して得られた情報・データ）を収集して、広義の人工知能を用いて解析を行います。解析は共同研究機関である理化学研究所で行われます。対象患者さんは約730人の方で、研究期間は公立陶生病院倫理委員会承認後から2027年5月までを予定しています。

この研究では、集計・解析に際して公立陶生病院で匿名化して情報を取り扱い、対象者のお名前やご住所等直接同定できる個人情報に厳重に保護してどなたのものか分からない状態で共同研究機関に送られます。また研究成果は、学会や雑誌等で発表されますが、個人を特定する情報は公表しません。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科主任部長・近藤康博（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

研究責任者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科（名古屋大学医学系研究科 呼吸器内科学） 医員 古川 大記

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科主任部長 近藤 康博

共同研究機関：国立研究開発法人理化学研究所 光量子工学研究領域 画像情報処理研究チーム 横田 秀夫